

世田谷

市

民

大

学

2024年度 前期募集案内



申込締切日 2月20日(火)

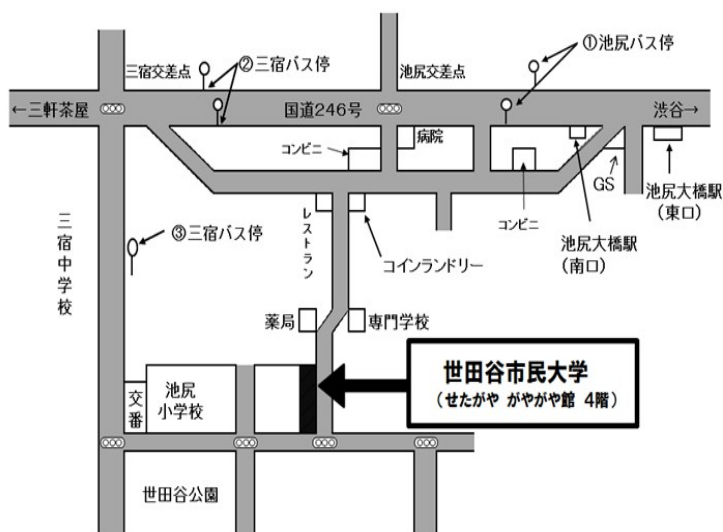
※追加募集を3月11日(月)まで行う場合があります。

詳細は10ページをご覧ください。

「世田谷市民大学」は、18歳以上の区民が誰でも参加できる区民のための学習の場です。

政治・社会・経済・人間に関連した幅広いテーマを取り上げ、地域社会に密着した問題や、市民自治の担い手に必要な現代社会の諸問題に対する確かなものの見方を培うよう、講師陣が丁寧に系統的な講義・ゼミを行います。

●世田谷市民大学 案内図



(交通ご案内)

電車

東急田園都市線 「池尻大橋駅」
南口より徒歩約8分

バス

- ①番の「池尻」バス停より徒歩約7分
- ②番の「三宿」バス停より徒歩約7分
(渋谷駅～上町駅・用賀駅・祖師ヶ谷大蔵駅・成城学園前駅西口・調布駅南口・等々力・田園調布駅・二子玉川駅 他)
- ③番の「三宿」バス停より徒歩約7分
(渋谷駅～野沢龍雲寺(循環)、渋谷駅～東京医療センター 他)

※世田谷市民大学受講生用の駐車場はありません。

(1階にコインパーキングがあります)

※「せたがや がやがや館」は、世田谷区立健康増進・交流施設です。市民大学は、施設内の会議室を一部借用して開講しています。

世田谷区 市民大学・生涯大学事務局

〒154-0001 世田谷区池尻2-3-1 1世田谷区立 せたがや がやがや館4階
TEL 03-3412-3071 FAX 03-3412-3075
(8:30~17:00 土・日曜日、祝日休)

世田谷区 生活文化政策部 市民活動推進課

〒156-0043 世田谷区松原6-3-5 梅丘分庁舎
TEL 03-6304-3176 FAX 03-6304-3597
(8:30~17:00 土・日曜日、祝日休)

— 目 次 —

◇学習の方式 P 1	◇前期プログラム P 2, 3
◇昼間講座の概要 P 4, 5	◇ゼミ/土曜講座/少人数特別講座の概要 . P 6, 7
◇今後の講座予定 P 8, 9	◇運営委員会/評議会 P 9
◇申込みのご案内 P 10	◇申込書 (裏表紙)

学習の方式

世田谷市民大学は、月曜日に「政治」・「社会」、金曜日に「経済」・「人間」のコースがあり、それぞれ「ゼミ」と「昼間講座（前期・後期）」で構成されています。

その他、土曜講座（前期・後期）、少人数特別講座（前期・後期）、世田谷市民サマーフォーラム、公開講座などもあります。これらの中から希望の講座を選択し、学習することができます。

この募集案内では、以下の前期講座について申込みを受付けます。

講座の詳細はP.2～7を、申込み方法等はP.10をご覧ください。

募集講座(前期)

講座名	コース	定員	回数	内容・受講上の注意
ゼミ (通年)	政治 社会 経済 人間	各16名	24回	講師の指導のもと、発表・討論を行うなど、自主的に学習を進めます。 同日、同時間帯の昼間講座との重複受講不可。 受講料は半期ごとに納入いただきます。 詳細:P2、6
昼間講座	政治 社会 経済 人間	各60名	12回	講師がテーマに沿って講義形式で行います。 講座は希望するコース・時間割の選択制です。 (複数受講可) 同日、同時間帯のゼミとの重複受講不可。 詳細:P2、4、5
土曜講座		各60名	6回	土曜日に講義形式で行います。 詳細:P3、7
少人数 特別講座		各29名	6回	

その他の講座紹介(別途募集を行います)

講座名	内容
世田谷市民サマーフォーラム	7月～8月に行う短期集中型講座で、統一テーマのもと複数回行います。
公開講座	12月～2月にかけて行う無料の特別講座です。

2024年度 世田谷市民大学 前期プログラム

曜日	日程	区分	時間割	講座タイトル	講師
月曜日	4月 8・15・22日	昼間講座	政治 1 時限	戦後台湾の国際関係	福田 円 (法政大学教授)
			政治 2 時限	ウクライナ ～西ルーシからポスト社会主義まで	松里 公孝 (東京大学教授)
	5月 13・20・27日	ゼミ	政治(午後)	偉人伝ではないリーダーシップ考 ～現代ヨーロッパを動かした人々 ※1	小川 有美 (立教大学教授) 補助講師：清水 謙 (立教大学兼任講師)
	6月 3・10・17・24日	昼間講座	社会 3 時限	文化社会学の視座 ～「若者」たちの日常から考える	辻 泉 (中央大学教授)
			社会 4 時限	ロックミュージックの社会学	南田 勝也 (武蔵大学教授)
	7月 1・8日 (全 12 回)	ゼミ	社会 (午前)	日本の近代化について再考する ※1	有末 賢 (慶應義塾大学名誉教授)

金曜日	4月 12・19・26日	昼間講座	経済 1 時限	日本経済と食料・農業のゆくえ	西川 邦夫 (茨城大学准教授)
			経済 2 時限	日本経済の失われた 30 年 ～供給側から見た日本経済	金 榮愨 (専修大学教授)
	5月 10・17・24・31日	ゼミ	経済(午後)	観光の経済史 ※1	高嶋 修一 (青山学院大学教授)
	6月 7・14・21・28日	昼間講座	人間 3 時限	フランス語圏文学入門 ※2	廣松 勲 (法政大学准教授)
			人間 4 時限	老いとジェンダー この講義は 6 月 21 日を休講とし、 7 月 12 日を講義日とします。	沖藤 典子 (著述業/元社会保障審議会委員) 渡部 政喜 (介護福祉士/元マーケティング会社代表) 西出 勇志 (共同通信編集委員) 島蘭 進 (大正大学客員教授)
	7月 5日 (全 12 回)	ゼミ	人間(午前)	戦後日本における政治と思想 ※1	広岡 守穂 (中央大学名誉教授)

曜日	日程	区分	時間割	講座タイトル	講師
土曜日	5月 11・18・25日 6月 1・8・15日 (全6回)	土曜講座・ 少人数特別講座	土曜 2 時限 少人数特別講座	日本経済～なぜ衰退したのか、 抜け出す途はあるのか	石見 徹 (東京大学名誉教授)
			土曜 3 時限	日本の社会保障をどうするか ～現実とビジョン	宮本 太郎 (中央大学教授)
			土曜 4 時限	地域で守り活かす文化遺産 ～多様性社会を視野に入れて	馬場 憲一 (法政大学名誉教授)

掲載している講師の肩書は2023年12月1日現在のものです。

【講義時間】

昼間講座 土曜講座 少人数特別講座	1 時限	9 時 20 分～10 時 40 分
	2 時限	11 時 00 分～12 時 20 分
	3 時限	13 時 10 分～14 時 30 分
	4 時限	14 時 50 分～16 時 10 分
ゼミ	午前	10 時 20 分～12 時 20 分
	午後	13 時 30 分～15 時 30 分

※1

ゼミは前期・後期の通年講座です。後期のゼミ日程は以下の予定です。

【月曜日】9月2日～12月16日(祝日除く)

【金曜日】9月6日～11月22日

※2

人間3時限「フランス語圏文学入門」については、月に1度休講が予定されており、7月12日、19日、26日、8月2日の同時刻に補講を予定しております。

詳細は講座開講にお知らせいたします。ご了承ください。

上記講座以外も、都合により講義日に変更が生じる場合は、最終回の翌週以降、同曜日、同時間に補講を行うことを基本とします。

月曜日 政治コース

1 時限：戦後台湾の国際関係

(福田円)

この授業では戦後台湾の歴史と現状を、特に中国との関係や国際関係の側面から学び、議論します。そのことを通して、台湾をめぐる国際関係の複雑さを理解すると同時に、戦後の東アジア国際関係の特徴を捉えることも目指します。

台湾は中国大陸の東南、北東アジアの西南、東南アジアの北東に位置し、その歴史は多くの「外来勢力」によって彩られ、独特の重層的な社会を形成してきました。そのため、台湾を理解するためには、台湾を包摂する多重的な地域政治や国際政治の文脈をふまえることは必須であると言えます。特に 1990 年代以降、民主化をはじめとする台湾内部の変化とその国際的地位の変化は目覚ましく、我々は隣人としてそれらをしっかりと理解する必要があります。

- 第 1 回 台湾とはどのような地域か
- 第 2 回 台湾をめぐる国際関係概論
- 第 3 回 日本統治時代と中華民国への「光復」
- 第 4 回 蒋介石時代の国際関係 (1950-75)
- 第 5 回 中華民国の国際的孤立と台湾 (1970 年代)
- 第 6 回 蔣経国時代の国際関係 (1972-88)
- 第 7 回 李登輝政権期の国際関係 (1988-1996)
- 第 8 回 李登輝政権期の国際関係 (1996-2000)
- 第 9 回 陳水扁政権期の国際関係 (2000-08)
- 第 10 回 馬英九政権期の国際関係 (2008-16)
- 第 11 回 蔡英文政権期の国際関係 (2016-24)
- 第 12 回 まとめ：台湾をめぐる国際関係の展望と課題

2 時限：ウクライナ

～西ルーシからポスト社会主義まで

(松里公孝)

本講義では、9 世紀から現代までのウクライナの歴史を概観します。といっても、独立国家ウクライナが現れたのは 1991 年ですし、ウクライナ(人)が今日に近い意味になったのは、ロシア革命後のことです。

言い換えれば、ウクライナ一國史というものには存在しません。本講義でも、ルーシの一部としてのウクライナ、正教のウクライナなど、ウクライナ(人)を包摂していたより大きな地域・集団との関係で、ウクライナを解説します。ウクライナは、世界史上の大問題を考察する入り口になれる刺激的な存在なのです。

- 第 1 回 キエフ・ルーシからモンゴルの侵入まで(9 - 13 世紀)
- 第 2 回 東西ルーシの分裂と合同教会主義 (13 - 15 世紀)
- 第 3 回 ポーランドとコサック (16 - 17 世紀)
- 第 4 回 ロシア帝国に吸収された西ルーシ (18 - 19 世紀)
- 第 5 回 ウクライナ革命
- 第 6 回 ソビエト・ウクライナの光と影
- 第 7 回 ベレストロイカとソ連解体
- 第 8 回 4 人の大統領、脱共産主義社会の苦悩
- 第 9 回 ユーロマイダン革命とその後
- 第 10 回 クリミアの歴史
- 第 11 回 ドネツク州の歴史
- 第 12 回 ロシア・ウクライナ戦争

月曜日 社会コース

3 時限：文化社会学の視座

～「若者」たちの日常から考える

(社泉)

現代の日本社会においては、さまざまな文化現象があふれかえっています。政治や経済などと違って、文化は単に楽しいだけのものと考えられがちですが、それもまた、社会と大きく関わり、時に社会へも大きな影響を及ぼしたりします。

この講座で、特に取り上げる予定であるのは、「若者」の文化であり、現在の「若者」たちの文化、かつて「若者」だった人たちの文化などに注目します。あるいは、担当者がこれまで研究を深めてきたような、文化を特に強く愛好する人々、ファンやオタクなどと呼ばれる存在にも注目します。

そのように、時に身近に、時に異質にも感じられるさまざまな文化現象の実態を通して、今日の日本社会への理解を深めていくことが、この講座の目的です。

講座全体の予定としては、おおむね前半の数回を通して、文化に対するこれまでの様々な学問的なアプローチを比較検討したうえで、文化社会学的なアプローチを紹介する予定です。そして後半の数回を通して、具体的な文化現象を取り上げてその理解を試みたいと思います。

その上で、受講された皆さんが、文化社会学の視座を理解し、そのアプローチを身に付け、ご自分でも、様々な文化現象の分析、理解ができるようになっていただけることを目指したいと思います。

特段の基礎知識は必要ありません。多くの方のご参加をお待ちしております。

4 時限：ロックミュージックの社会学

(南田勝也)

1960 年代中期に世界的な発展を遂げた米英日の「ロック音楽」を社会学の視点から読解します。エルヴィス、ビートルズ、ボブディラン、レッドツェッペリン、セックスピストルズ、岡林信康、はっぴいえんど、キャロル、RCサクセション、尾崎豊、ブルーハーツなど、おもに 20 世紀のロックミュージシャンを議論の俎上に載せますが、本講義の分析視覚は「何年に誰が登場して、そのとき何があって……」という歴史探訪や英雄礼賛の態度とは一線を画します。むしろそのような「語り方」や「実践の在り方」がどのような社会構造のもとで生じるのか、階層・芸術活動・文化産業などの社会的諸条件はミュージシャンにいかなる影響を与えるのか、などの分析を通じて、文化にまつわる人々の行為の意味を明らかにします。

- 第 1 回 ロック誕生 60s：アウトサイド指標
- 第 2 回 ロック誕生 60s：アート指標
- 第 3 回 ロック誕生 60s：エンターテイメント指標
- 第 4 回 ロック場の理論：ブルデューの文化社会学
- 第 5 回 ロック場の展開 70s：パンクロックの意味
- 第 6 回 ロック場の展開 80s：世界音楽への拡張
- 第 7 回 日本のロック 60s：ビートルズ来日
- 第 8 回 日本のロック 60s：フォークかロックか
- 第 9 回 日本のロック 70s：ロックの困難
- 第 10 回 日本のロック 80s：インディーズの指向
- 第 11 回 日本のロック 80s：尾崎豊とブルーハーツ
- 第 12 回 日本のロック 90s：音楽産業と J ポップ

1 時限：日本経済と食料・農業のゆくえ

(西川邦夫)

食料消費は家計の一部であり、農業は産業の一部門です。いずれも人間の経済活動であり、経済全体の動向から大きな影響を受けます。しかしながら、食料が人間の生存に不可欠であることから、それを生産する農業は他とは違う特別な部門として捉えられがちでした。そこでこの講義では、経済全体の動向が与える影響を意識しながら、日本を中心として、食料・農業の最新のトピックスを分かりやすく解説していきます。

この講義のキーワードは、「理論」「歴史」「国際」「政策」です。以上の視角から、現代の食料と農業を多面的に眺めていきます。また、講義では講師からの一方的な情報伝達ではなく、受講者の皆さんとの対話を重視して、リアクションペーパーの作成と回答の時間を取ります。

- 第 1 回 農業問題と農業政策
- 第 2 回 国際的な食料需給の変化
- 第 3 回 国際貿易交渉における農業の位置づけ
- 第 4 回 アメリカの食料・農業
- 第 5 回 日本の食料安全保障の現状
- 第 6 回 家計と食料消費の変化
- 第 7 回 コメ問題と生産調整政策の歴史
- 第 8 回 農業労働力の脆弱化と外国人労働力
- 第 9 回 農業構造の変化と多様な担い手
- 第 10 回 農業環境問題と多面的機能
- 第 11 回 条件不利地域農業と農山村再生
- 第 12 回 食料・農業のゆくえ

2 時限：日本経済の失われた 30 年
～ 供給側から見た日本経済

(金榮愨)

日本経済は 1955～70 年の高度成長期とよばれる時期に年率約 10% の驚異的な速さで成長をしました。その後、オイルショックなどに見舞われながらも 1970～1990 年で平均約 5% の高い成長率を維持してきました。しかし、1991 年バブル経済崩壊以降、経済の成長パターンは一変します。1990～2000 年で平均 0.9%、2000～2010 年 0.3%、2010～2019 年 0.9% と、低成長が続いています。このような変化は、1990 年代以降も成長を続けてきたアメリカ経済と比較されることが多いです。1990 年代の「失われた 10 年」、その後も明確な回復を見せず、この頃は「失われた 30 年」とまで言われるようになった理由はどこにあるのでしょうか。

これに関しては、経済の需要側からも供給側からも多くの研究が行われてきました。この講義では、第一歩として、日本経済の長期低迷を説明する主な研究を紹介しながら、その時の経済状況を概観します。その上で、主に供給側から長期低迷という経済の下にある動き、そうなった原因に関して、様々な視点から見て、近年の日本経済の動きと課題を考えることにします。

取り上げる予定の主なテーマは、以下の通りです。

経済の長期成長、労働の減少（人口構造の変化）、設備投資の問題（過剰投資と過小投資）、マクロの生産性動学、産業と企業の動学、企業内・企業間資源配分、IT と生産性、無形資産、イノベーション、AI と生産性、AI と労働、非正規雇用、中小企業の生産性とダイナミズム、中小企業と大企業の格差、高齢化と日本経済など。

3 時限：フランス語圏文学入門

(廣松勲)

フランス文学という文学制度は、近年ではフランス語圏文学というより大きな概念でとらえられることが多くなってきた。フランス語で書かれた文学作品といっても、フランス共和国出身者だけでなく、旧植民地の海外県・海外領土出身者、旧植民地からの移民（の子孫）たちによる作品が大きく注目されるようになったのである。

本講義では特にアメリカ大陸のフランス語圏（カリブ海域諸島とカナダ・ケベック州）に注目しながら、現在のフランス語圏文学の状況を解説する。

大きな流れとしては、まずフランス語圏（フランコフォニー）と文学研究の概要を説明したのち、各地域の解説とそれぞれ 3 つの作品の分析を行っていく。

- 第 1 回 フランコフォニー（フランス語圏）とは何か？
- 第 2 回 フランス語圏文学研究とは何か？
- 第 3 回 カリブ海域諸島のフランス語圏について
- 第 4 回 エメ・セゼールの長編詩『帰郷ノート』
- 第 5 回 エドゥアール・グリッサンの小説『レザルド川』
- 第 6 回 パトリック・シャモワゾーの小説『素晴らしきソリボ』
- 第 7 回 カナダ・ケベック州のフランス語圏について
- 第 8 回 ジャック・ゴドブーの小説『やあ！ガラルノー』
- 第 9 回 エミール・オリヴィエの小説『パッサージュ』
- 第 10 回 ダニー・ラフェリエール的小説『吾輩は日本作家である』
- 第 11 回 静かな革命期の文学：カリブとケベックのつながり
- 第 12 回 まとめ：社会と芸術とのつながり

4 時限：老いとジェンダー

(沖藤典子/渡部政喜/西出勇志/島蘭進)

ジェンダーは、高齢者にとってたいへん深刻な問題になることが少なくありません。ジェンダーは男女の性別役割分担の根底にあり、性別を問わず人びとが自由で対等な生き方をめざすことをしばしば妨げています。そしてそれとともに世代の対立を含んでいます。

そこで老いることとジェンダーとがどういうところで重ね合わさるのかということを見ていきたいと思います。沖藤典子氏の近著は自伝です。その中には父親や夫のジェンダー意識に苦しんだことが赤裸々に語られています。西出勇志氏は宗教と文化を担当しているジャーナリストで、宗教からみたジェンダーに精通しています。島蘭進氏は宗教学者で、その知見をとおしてジェンダーの問題を語ります。渡部政喜氏は介護の現場から見える老いの実態を語ります。

コーディネーター：広岡守穂(運営委員)

- 第 1 回 人口減少と男女共生社会... 異次元の少子化対策のために
- 第 2 回 人生 100 年時代、介護の社会化と女性の生き方
- 第 3 回 老いを生きる 5 つの知恵... 国連 5 原則をもとに
- 第 4 回 介護施設にみる老い 各種統計が照らす高齢者の現在地
- 第 5 回 介護施設にみる老い 介護保険制度の中の高齢者
- 第 6 回 介護施設にみる老い 被保護者として高齢者の置かれている現実
- 第 7 回 死を語る、考える デスカフェなどの広がり
- 第 8 回 散骨から堆肥葬まで 30 年で激変した葬送
- 第 9 回 地域社会における寺院活用の可能性
- 第 10 回 老いを受け入れる
- 第 11 回 老いに抗う
- 第 12 回 老いと死

《月曜日》政治ゼミ

偉人伝ではないリーダーシップ考
～現代ヨーロッパを動かした人々

(小川有美 補佐:清水謙)

最近の政治学は、制度や統計から政治を法則的に説明しようとしています。しかし政治を生身の人間を外して考えることはできません。その一つの重要な面がリーダーシップです(もう一つ忘れてはならないのは多様な市民社会です)。ウェーバーは大衆民主主義の時代になぜ指導者が重要になるのかを力説しました。

その後世界大戦を経たヨーロッパでは、国際協調が国内政治と同様に課題になります。複雑化する現代のかじ取りを担うことになったリーダー達はどのように決断し、失敗もしたのか。フランス、ドイツからEU、北欧までヨーロッパのリーダー達の実像を共同読書で考えていきます(ヨーロッパ以外については自主報告を期待します)。ゼミは聞くだけの講義の場でも、知識披露の場でもありません。各自が自分なりに読んで発見したことを報告しシェアする場にしましょう(教材はコピー配布の他、新書購入のお願いをすることもあります)。

《月曜日》社会ゼミ

日本の近代化について再考する

(有末賢)

かつて鶴見和子らは、「近代化論再検討研究会」を組織して『思想の冒険』(筑摩書房、1974年)を世に問うた。私自身は、この本から社会学に入ったのだが、定年を迎えて、世田谷市民大学の人たちとともに近代化論をもう一度学びなおしてみたいと考えた。

第1回目は、私の勉強してきた鶴見和子らの社会変動論について講義を行う。2回目以降は、三谷太一郎『日本の近代とは何であったか—問題史的考察—』(岩波新書、940円)をテキストにして文献を輪読する。三谷太一郎先生は政治学者であるが、社会学だけでなく政治に興味のある方も参加していただきたい。その後は、少し本格的であるが、荻谷剛彦『追いついた近代、消えた近代—戦後日本の自己像と教育—』(岩波書店、3300円)を後期も含めて読了したい。教育社会学の観点から日本の近代を問うた本である。戦後の日本社会を再考して、社会学を学びたいと思うゼミ生を募集します。

《金曜日》経済ゼミ

観光の経済史

(高嶋修一)

近代の観光(ツーリズム)に関する文献を読み、経済史的な論点を探っていきます。観光に関する論点はもちろん狭義の経済に限られるわけではありませんので、受講者は広く政治・社会・文化といったことにも関心をもって活発に議論に参加することが期待されます。という堅苦しい感じがするかもしれませんが、気楽に参加してください。楽しい話題から深淵な問いが見えてくるならば、学習としては大成功でしょう。

さしあたり高柳友彦『温泉旅行の近現代』(吉川弘文館、2023年)をテキストに輪読を行います。このタイトルからだけでも、希少資源の配分、地域開発、企業活動、経済と文化、経済と政治、近世との連続・不連続、などなど、いくつもの論点が想起されます。関心をもったテーマがあれば、各自でさらに追求してもよいでしょう。2冊目以降のテキストは受講生と話し合って決めます。

《金曜日》人間ゼミ

戦後日本における政治と思想

(広岡守穂)

わたしは1951年生まれですので、戦後史の大部分は同時代史です。親や先生から聞いたことや、流行歌や映画などなど、しらすらすらうちに社会や国や歴史についての考え方を獲得したと思います。

それは受講者のみなさまも同様でしょう。

狭い意味での政治思想にかぎらず、もっと広い視野で自分の来歴を考えたい。そういう思いで、ゼミをすすめていきます。

わたし自身は1980年代に政治に対する見方が地殻変動を起こしたと思っていますが、それは社会認識や女性観の変化にまで及ぶ、大きな変動だったように感じています。そしてその変動は1960年代後半から70年代前半にかけての若者文化の台頭によってもたらされたと考えています。でもこれにはいろいろなとらえ方があるでしょう。

大学を70歳で退職したのを機に、自分の人生と研究をかきねるかたちで本を書きました。『日本政治思想史・戦後編』(有信堂、2023年)です。この本をテキストに使用したいと思っています。

土曜講座・少人数特別講座の概要

土曜講座

3 時限：日本の社会保障をどうするか ～ 現実とビジョン

(宮本太郎)

社会保障ほど私たちの生活と人生に深くかかわる制度はない。年金受給しながらの暮らしをいかに充実させるか、女性の活躍が奨励されるがその条件は何か、これからの家族はどうなるのか。

他方で困窮と孤立の広がりも顕著で、日本の子育て世帯の可処分所得はすでに韓国や台湾を下回り、日常誰とも口をきかない単身高齢者は4人に1人に及ぶ。社会保障は日本社会と地域の持続可能性を決める。

にもかかわらず制度はあまりに複雑で問題のありかがつかみにくい。この講座では、日本の社会保障と福祉の特質と機能不全の理由を国際比較の視点を交えてまず理解し、多様な切り口からこれからのビジョンを考える。政治の課題、雇用との関係、地域とNPO等の実践例にも注目する。(以下各回タイトルは仮のもの)

- 第1回 日本の社会保障が直面する現実と「新しい生活困難層」
- 第2回 「異次元の少子高齢化」をどうするか スウェーデンとの対比
- 第3回 日本の社会保障と女性・ジェンダー
- 第4回 新自由主義・社会民主主義・ベーシックインカム その先へ
- 第5回 日本の社会保障と雇用 交差点型社会のビジョン
- 第6回 地域から何ができるか 新たな動向と展望

4 時限：地域で守り活かす文化遺産

～ 多様性社会を視野に入れて

(馬場憲一)

2017年12月、国の文化審議会は今後の文化財の保存・活用と継承について、過疎化と少子高齢化が懸念される中で文化財の担い手を確保し社会全体で支えていく体制づくりが急務との答申を行っています。

このような状況下において、地域に現存する文化財を含めた「文化遺産」を守り活用しながら次代に継承していくことは地域社会において大きな課題となっています。

本講座では、下記のような講義内容を通して文化遺産を地域に生活する人々の貴重な遺産と捉え、多様な価値観を持った人びとによって成り立つ現代社会を視野に入れ、その保存と活用の現状を教示し、文化遺産の保存・活用のあり方について受講生の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

- 第1回 文化遺産保護の歴史とその仕組み
- 第2回 文化遺産保護の担い手
- 第3回 文化遺産保護の近年の動向と活用のあり方
- 第4回 多様性社会の文化遺産の保存・活用
- 第5回 文化遺産保存・活用への担い手とその課題
- 第6回 地域の文化遺産を保存・活用する仕組み

少人数特別講座

2 時限：日本経済

～ なぜ衰退したのか、抜け出す途はあるのか

(石見徹)

「失われた30年」とか「先進国から脱落」とか言われるようになった日本経済の現状をやや長い時間軸から再検討します。

A. 高度成長期からバブル期まで、B. バブル崩壊から現在まで、この2つの時期で、何が変わったのかというのが第1のテーマです。ここでは、日本を取り巻く国際環境、企業のあり方、なかでも労使関係、そして政府の役割などに注目することになります。

第2の論点は、B. の時期に現れた種々の改革論を振り返ることです。たとえば「構造改革」論に何が欠けていたのか、「アベノミクス」はなぜ成功しなかったのか、といった疑問に答えるようにしたい。

衰退から抜け出すのは難しいですが、方向としては改革をともなった福祉国家しかない、というのが結論です。この点についても議論するつもりです。

- 第1回 現状の再確認、基本的な考え方
- 第2回 高度成長期と「成功」期
- 第3回 「失われた30年」
- 第4回 企業と労使関係
- 第5回 経済政策の問題点
- 第6回 柔軟で活力ある福祉国家

2024年度後期講座予告

後期(9月～12月)は以下の講座を開講予定です。

詳細は7月上旬に発行予定の『市民大学後期募集案内』をご覧ください。

掲載をしている講師の肩書は、2023年12月1日現在のものです。

曜日	時間割	講座タイトル	講師
月曜日	政治 1 時限	アメリカ政治～現状と争点	西山 隆行(成蹊大学教授)
	政治 2 時限	日本外交史 ～ユーラシア大陸東端の島国	五百旗頭 薫(東京大学教授)
	社会 3 時限	戦後日本とパブリック・リレーションズ	河 炅珍(國學院大學准教授)
	社会 4 時限	家族の変化と家族問題のゆくえ	稲葉 昭英(慶應義塾大学教授)
金曜日	経済 1 時限	戦後の経済社会を生きる	大門 正克(横浜国立大学名誉教授)
	経済 2 時限	経済予測と日本経済	樫 浩一(学習院大学非常勤講師・ 経済経営研究所客員所員)
	人間 3 時限	SDGs が『ジェンダー平等』を目指す 本当の理由 ～少子化・家事・ケア・ 貧困の視点から	竹信 三恵子 (ジャーナリスト・和光大学名誉教授)
	人間 4 時限	近代日本における読書と教育 ～「読むこと」と教育の関係を考える	山梨 あや(慶應義塾大学教授)

曜日	時間割	講座タイトル	講師
土曜日	土曜 2 時限	構造的不正義を考える	文 貞實(東洋大学教授)
	土曜 3 時限 少人数特別講座	現代資本主義論	小幡 道昭(東京大学名誉教授)
	土曜 4 時限	堤康次郎の開発事業 ～「土地の堤」とその時代	老川 慶喜(立教大学名誉教授)

世田谷市民大学運営委員会 / 評議会

学 長 浅子 和美（一橋大学名誉教授）
運営委員長

2023年12月1日現在

運営委員	小川 有美（立教大学教授）	評議員	佐藤 竺（成蹊大学名誉教授）
	苅部 直（東京大学教授）		馬場 康雄（東京大学名誉教授）
	川崎 賢一（駒澤大学教授）		間宮 陽介（京都大学名誉教授）
	高嶋 修一（青山学院大学教授）		和田 あき子（ロシア文学研究者）
	高原 明生（東京大学教授）		
	滝澤 美帆（学習院大学教授）		
	玉野 和志（放送大学教授）		
	広岡 守穂（中央大学名誉教授）		
	吉見 俊哉（國學院大学教授）		
	米山 光儀（慶應義塾大学名誉教授）		

今後の予定講座(2024年度)

世田谷市民サマーフォーラム

アジアのなかで共生を考える

中国が近い将来にGDPで米国を凌ぐであろうと見られており、人口ではインドがその中国を上回って世界一となりました。国際政治の舞台においても、G7の主導する体制に是々非々で臨むグローバル・サウスの一角として、アジア諸国が存在感を増しています。

本連続講座では日本近隣の東～南アジアにスポットを当て、5人の専門家に紐解いていただきます。国家としても一国民としても私たちが手を携えて生きていくべきアジアについて、マクロからミクロにわたる知見を得て、あらためて「共生」を考えてみませんか。

2024年7月～8月頃に実施予定です。

公開講座

広く一般区民の方を対象として年2～3回行われる特別講座です。（事前申込み制・受講料は無料）
2024年12月～2025年2月にかけて実施予定です。

受講生企画会議について

「土曜講座」の一部、「少人数特別講座」及び「世田谷市民サマーフォーラム」、「公開講座」については、『受講生企画会議』において受講生が企画し、上記の市民大学運営委員会に提案を行っています。

『受講生企画会議』の詳細は、市民大学事務局受付に配架中の「企画会議員の募集」ちらしをご覧ください。

申込みのご案内

募集対象

18歳以上の区内在住・在勤・在学の方

在勤在学証明書ご提示のお願いや、在勤・在学先へ在籍確認のご連絡を差し上げる場合があります。予めご了承ください。在学者とは世田谷区内の学校教育法第1条に規定される学校に在籍している方を対象とし、大学の聴講生や各種社会人講座を含むカルチャーセンター等の受講生は対象となりません。

申込み方法

(1)裏表紙の申込書利用の場合

必要事項を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送してください。

必ず63円切手を貼ってお出してください。

(2)郵便はがきまたはFAX利用の場合

裏表紙の申込書と同様の内容を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送またはFAXでお申込みください。

(3)オンライン手続き利用の場合

「東京共同電子申請・届出サービス」より、お申込みください。

二次元コード

(募集期間外は表示されません)



オンライン手続きで入力いただいたメールアドレスへ、突発的な休講等の連絡をすることがあります。予めご了承ください。

前期募集期間

ゼミ(通年)	2月1日(木)～20日(火) 消印有効
昼間講座	
土曜講座	
少人数特別講座	

募集定員

ゼミ(通年)	1ゼミにつき16名
昼間講座	1講座につき60名
土曜講座	1講座につき60名
少人数特別講座	1講座につき29名

定員を大幅に下回るときは中止になる場合があります。申込多数の場合は、抽選により受講者を決定します。(抽選の場合、初めて市民大学に申込みされる方を優先します)

受講料

ゼミ	前期・後期各17,000円 昼間講座との割引制度があります。詳細は下記をご覧ください。
昼間講座	1講座につき7,000円 ゼミとの割引制度があります。詳細は下記をご覧ください。
土曜講座	1講座につき5,000円
少人数特別講座	1講座につき5,000円

ゼミと昼間講座との併用割引について

- ・ゼミと昼間講座を併せて受講決定されると、昼間講座の受講料が割引になります。
- ・昼間講座1講座につき3,500円(2講座まで)2講座を超える場合は3講座目から、1講座につき6,000円になります。

ゼミでは、学習用教材を購入していただく場合があります。

ゼミ後期分受講料の納入については、6月頃に改めてお知らせいたします。

受講者の決定・受講料の支払い

3月上旬に、申込者全員に受講可否の通知を郵送します。受講可否についての問合せはご遠慮ください。また、受講が決定した方には別途、納付書を郵送します。(4月上旬)

納付された受講料は、原則としてお返しできません。

《前期講座の追加募集について》

申込締切日(2月20日火曜日)以降、定員に満たない講座については、先着順で追加募集をします。(3月11日月曜日まで)

追加募集の講座については、お電話でお問い合わせください。

各講座先着順で、定員に達し次第締切ります。

TEL 03-3412-3071

受付時間/8:30～17:00土・日曜日、祝日はお休みです。

× ㄷ

2024 年度前期講座の申込控えとしてお使いください

【ゼミ】

○印	時限	ゼミ名	講師
社会	(月)午前	日本の近代化について再考する	有末 賢 (慶應義塾大学名誉教授)
政治	(月)午後	偉人伝ではないリーダーシップ考 ～現代ヨーロッパを動かした人々	小川 有美 (立教大学教授)
人間	(金)午前	戦後日本における政治と思想	広岡 守穂 (中央大学名誉教授)
経済	(金)午後	観光の経済史	高嶋 修一 (青山学院大学教授)

【昼間講座】

○印	時限	講座名	講師
政治	(月)1時限	戦後台湾の国際関係	福田 円 (法政大学教授)
	(月)2時限	ウクライナ ～西ルーシからポスト社会主義まで	松里 公孝 (東京大学教授)
社会	(月)3時限	文化社会学の視座 ～「若者」たちの日常から考える	辻 泉 (中央大学教授)
	(月)4時限	ロックミュージックの社会学	南田 勝也 (武蔵大学教授)
経済	(金)1時限	日本経済と食料・農業のゆくえ	西川 邦夫 (茨城大学准教授)
	(金)2時限	日本経済の失われた30年 ～供給側から見た日本経済	金 榮愨 (専修大学教授)
人間	(金)3時限	フランス語圏文学入門	廣松 勲 (法政大学准教授)
	(金)4時限	老いとジェンダー	沖藤 典子 (著述業/元社会保障審議会委員) 渡部 政喜 (介護福祉士/元マーケティング会社代表) 西出 勇志 (共同通信編集委員) 島蘭 進 (大正大学客員教授)

【土曜講座】

○印	時限	講座名	講師
	3 時限	日本の社会保障をどうするか ～現実とビジョン	宮本 太郎 (中央大学教授)
	4 時限	地域で守り活かす文化遺産 ～多様性社会を視野に入れて	馬場 憲一 (法政大学名誉教授)

【少人数特別講座】

○印	時限	講座名	講師
	2 時限	日本経済 ～なぜ衰退したのか、抜け出す途はあるのか	石見 徹 (東京大学名誉教授)

注意事項

- ・講義の録音・撮影、資料の複製は禁止です。
- ・授業の妨害行為(録音・撮影含む)が行われていると市民大学が判断した場合は、その場で教室から退室いただきます。原則としてその後の講義もご受講いただけません。
- ・諸般の事情により、講義内容、回数、日程等に変更が生じる場合があります。

2024年度 前期申込書

【ゼミ】受講を希望する場合、○印をつけてください。

○印	時限	ゼミ名
社会	(月)午前	日本の近代化について再考する
政治	(月)午後	偉人伝ではないリーダーシップ考 ～現代ヨーロッパを動かした人々
人間	(金)午前	戦後日本における政治と思想
経済	(金)午後	観光の経済史

【昼間講座】希望の講座に 印をつけてください。

○印	時限	講座名
政治	(月)1時限	戦後台湾の国際関係
	(月)2時限	ウクライナ ～西ルースからポスト社会主義まで
社会	(月)3時限	文化社会学の視座 ～「若者」たちの日常から考える
	(月)4時限	ロックミュージックの社会学
経済	(金)1時限	日本経済と食料・農業のゆくえ
	(金)2時限	日本経済の失われた30年 ～供給側から見た日本経済
人間	(金)3時限	フランス語圏文学入門
	(金)4時限	老いとジェンダー

2024年度 前期申込書

・希望の講座に 印をつけてください。

【土曜講座】

○印	時限	講座名
	3時限	日本の社会保障をどうするか ～現実とビジョン
	4時限	地域で守り活かす文化遺産 ～多様性社会を視野に入れて

【少人数特別講座】

○印	時限	講座名
	2時限	日本経済 ～なぜ衰退したのか、抜け出す途はあるのか

郵便はがき

63 円

※切手を貼
ってください

1 5 4 0 0 0 1

世田谷区池尻

2-3-11

せたがや がやがや館 4 階

世田谷市民大学 行

前期【ゼミ・昼間講座用】

ふりがな		生 年 月
氏 名		大正 昭和 平成 年 月
住 所	〒	
電話番号		※日中に連絡のとれる電 話番号をご記入ください (携帯電話も可)
区内在勤・ 在学者	勤務・ 在学先名	
	勤務・在学先 住所/電話番号	

- 必要事項を記入の上、世田谷市民大学あてに郵送してください。

※63円切手を必ず貼ってお出してください。

- 申込期間

2月1日(木)～2月20日(火)

(消印有効)

- 提供された個人情報は、市民大学の運営にのみ使用します。

郵便はがき

63 円

※切手を貼
ってください

1 5 4 0 0 0 1

世田谷区池尻

2-3-11

せたがや がやがや館 4 階

世田谷市民大学 行

前期【土曜講座・少人数特別講座用】

ふりがな		生 年 月
氏 名		大正 昭和 平成 年 月
住 所	〒	
電話番号		※日中に連絡のとれる電 話番号をご記入ください (携帯電話も可)
区内在勤・ 在学者	勤務・ 在学先名	
	勤務・在学先 住所/電話番号	

《問合せ先》

世田谷市民大学事務局

TEL 03-3412-3071

FAX 03-3412-3075

※8:30～17:00

(土・日曜日、祝日はお休みです。)

《お知らせ》

後期(9～12月)に開講する講座は、7月上旬から募集を行う予定です。